

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東大成小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全学年共通して、国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び算数の「数と計算」において課題が見られた。教科別正答率分布表でも低位で一山できており、低位の児童に漢字や言葉の使い方、四則演算の定着を今まで以上に図るために、「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活用していきたい。また、SAやTTを効果的に活用し、苦手意識のある児童に対して、丁寧に指導していく。
思考・判断・表現	学年が上がるにつれて、「思考・判断・表現」に関する設問への正答率が低下する傾向がある。設問が難しくなる分、何をどう考えていけばよいのかといった考え方や問題文から必要な事柄を読み取る力が必要となってくる。学習活動全般において、根拠となる文献や図表、データ等を明確に示せるよう指導を重ねていく。また、他者参照を基に、学習における個々の自己調整を促し、よりよい考え方や根拠を選択できるよう授業を展開していく。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組みましたか」学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」といった質問に対する肯定的な回答が90%以上であった。引き続き、ICT機器を効果的に活用した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を行うことで、児童の主体的・対話的で深い学びを展開していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関わる領域において、全学年で市平均との差を-3pt以内に向上させる。	⇒ 家庭学習や業前活動で「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。その際、下学年の教材も活用することで、個別最適な学びに取り組み、基本的な知識・技能の向上をはかる。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」に関わる領域において、全学年で市平均との差を-3pt以内に向上させる。	⇒ 小グループで考えを伝え合う時間を設定したり、オクリンク等のプレゼンテーションソフトを活用したりすることで、豊かな表現力を養う。また、他者の考えと自身の考えを比較・検討する習慣を身に付けさせることで、深い学びにつなげる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を94%以上にする。	⇒ 学習に対して見通しをもって取り組めるように、学習計画を作成したり、既習事項を毎時間振り返ったりし、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語では3学年、算数・社会・理科ではそれぞれ1学年が、市平均との差を-3pt以内にする事ができた。国語・算数・社会では、市平均を上回る学年がそれぞれ1学年ずつあった。	C
思考・判断・表現	国語では2学年、算数では3学年、社会・理科ではそれぞれ1学年が、市平均との差を-3pt以内にする事ができた。国語で1学年、算数で2学年、社会・理科では1学年が市平均を上回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が、5年生で98%、6年生で96%と、目標値を上回った。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+0.2pt、算数+6ptであった。国語の漢字を書き直す問題で、解答類型を見てみると、熟語の片方の漢字は書けているが、もう一方の漢字を間違えている児童が多い。熟語として理解できるように、継続して指導していく。
思考・判断・表現	算数の「図形」領域において課題が見られた。三角形の底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述する問題で、三角形の底辺と高さをどこで見取ればよいか理解していない誤答が多かった。図形の求積公式を扱う際には、様々な形を使って、理解を深める活動を重視していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は90.7%で目標値に達しなかった。R4年度から-3ptであり、より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	さいたま市平均と比べて、国語「知識・技能」-3.2p、「思考・判断・表現」-5p、算数「知識・技能」-4p、「思考・判断・表現」-2pであった。算数では、「数と計算」において課題が見られ、3位数×1位数及び小数の減法の計算で、市平均正答率より10p以上下回った。引き続き、基礎・基本となる四則演算の定着に努める必要がある。	小4	さいたま市平均と比べて、国語「知識・技能」+1.3p、「思考・判断・表現」+0.8p、算数「知識・技能」-3.6p、「思考・判断・表現」+1pであった。国語では、約7割の問題で市平均正答率を上回った。算数では、四則演算の設問において市平均正答率より5p前後下回った。3年生同様、基礎・基本の定着に努める。
小5	さいたま市平均と比べて、国語「知識・技能」-0.1p、「思考・判断・表現」-0.5p、算数「知識・技能」+0.3p、「思考・判断・表現」+1.6pであった。算数では、「数と計算」に課題が見られ、約7割の設問で市平均正答率を下回ったが、「図形」及び「データの活用」においては、市平均正答率を上回った。また、社会の「知識・技能」及び社会・理科の「思考・判断・表現」で市平均正答率を上回った。	小6	さいたま市平均と比べて、国語「知識・技能」-0.6p、「思考・判断・表現」-5.9p、算数「知識・技能」-6.4p、「思考・判断・表現」-3.7pであった。算数では、「数と計算」において課題が見られ、約6割の問題で市平均正答率より5p以上下回った。また国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の設問全てで市平均正答率を下回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 教師からのフィードバックや他者参照を基に、学習における個々の自己調整を促し、児童の学習改善へとつなげる。

